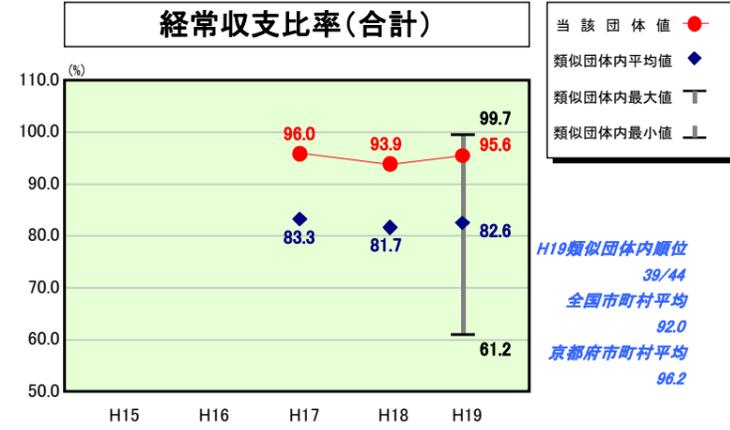


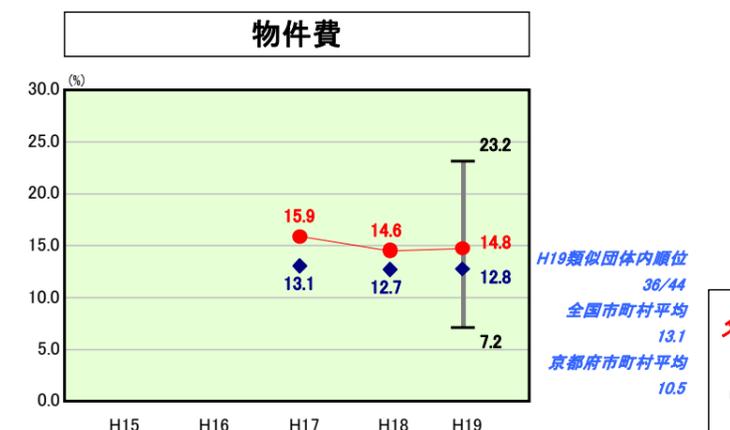
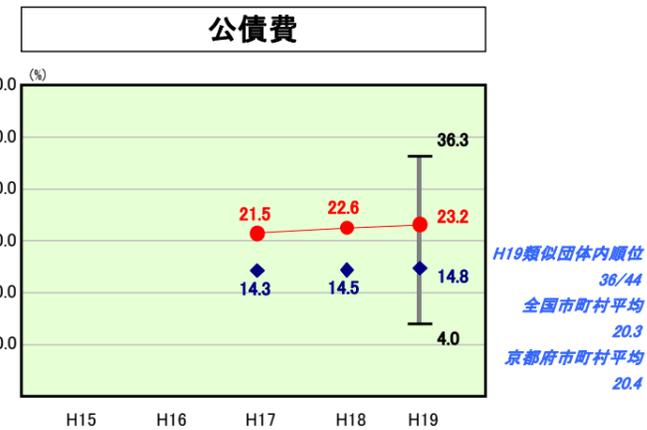
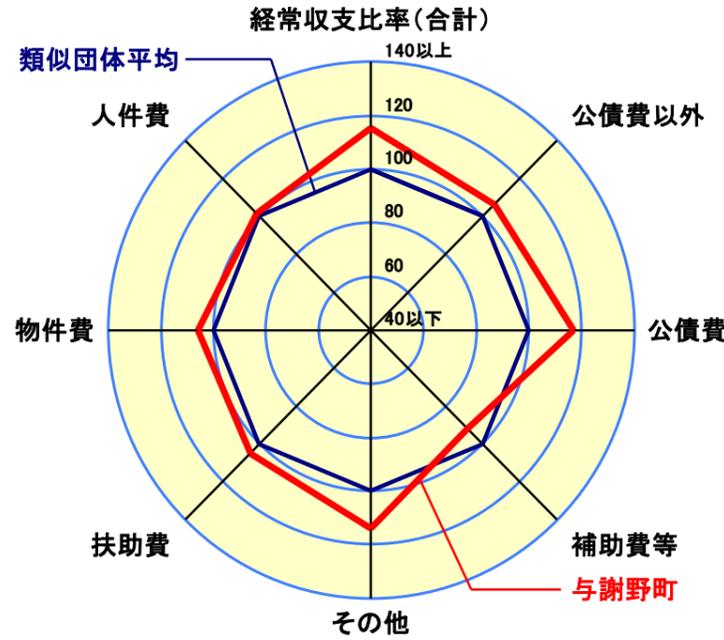
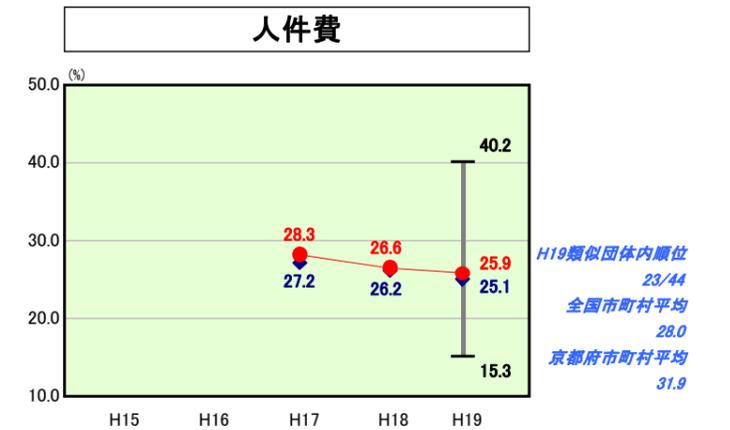
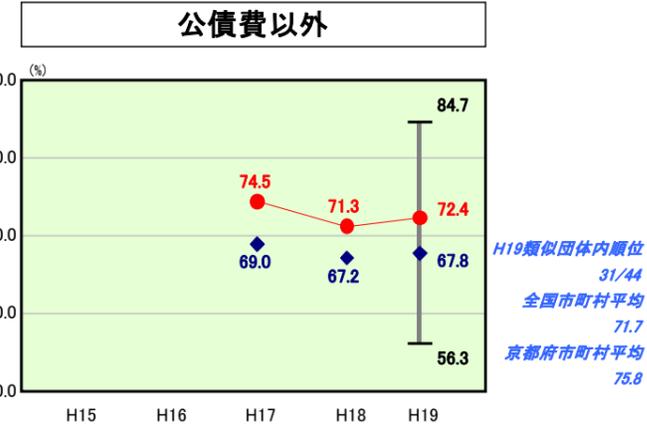
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

京都府 与謝野町

経常収支比率の分析



| | |
|------|------------------------|
| 人口 | 25,056人(H20.3.31現在) |
| 面積 | 107.04 km ² |
| 歳入総額 | 10,452,839千円 |
| 歳出総額 | 10,285,536千円 |
| 実質収支 | 157,383千円 |



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【人件費】
類似団体を僅かに上回っているが、定員適正化計画等に基づき、退職者不補充などにより一層の人件費の削減に努めなければならない。

【物件費】
現在は円滑な合併移行を目的に庁舎をはじめ、重複する同一施設を維持管理しているため、類似団体平均を大きく上回っているのが現状であるが、今後は整理、統合といった抜本的な改革を進める必要がある。

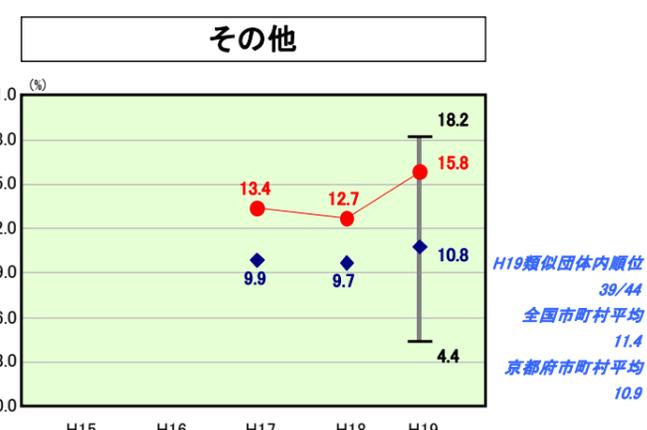
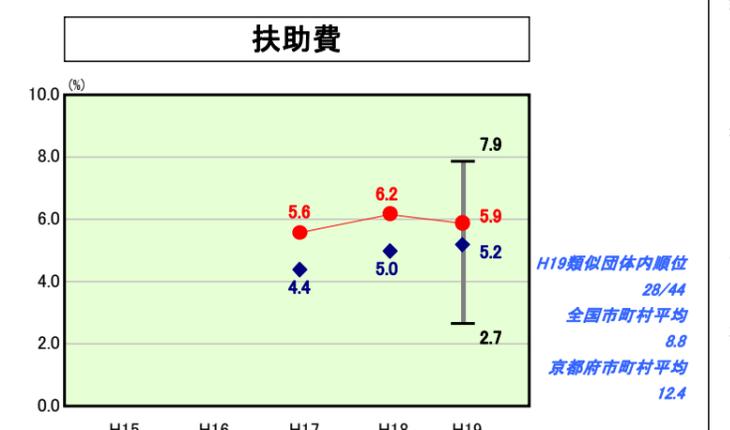
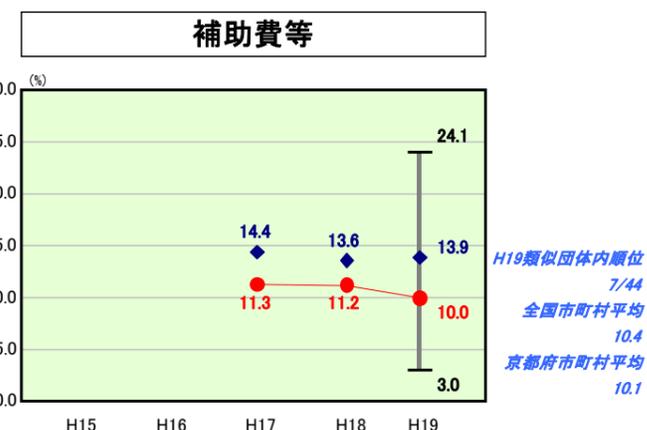
【扶助費】
児童生徒医療などの町独自施策を実施していること等により経常収支比率が5.9ポイントと類似団体平均を上回っている。

【公債費】
公債費に係る経常収支比率は23.2ポイントと類似団体平均を大きく上回っている。公債費については、今後、簡易水道、下水道等も増加が見込まれており、全会計を通じた発行、償還に関する適切な管理が必要である。

【補助費等】
ここ数年間、類似団体を下回る数値で推移しており、今後も補助金の対象団体や金額の見直し等により更なる削減を図る。

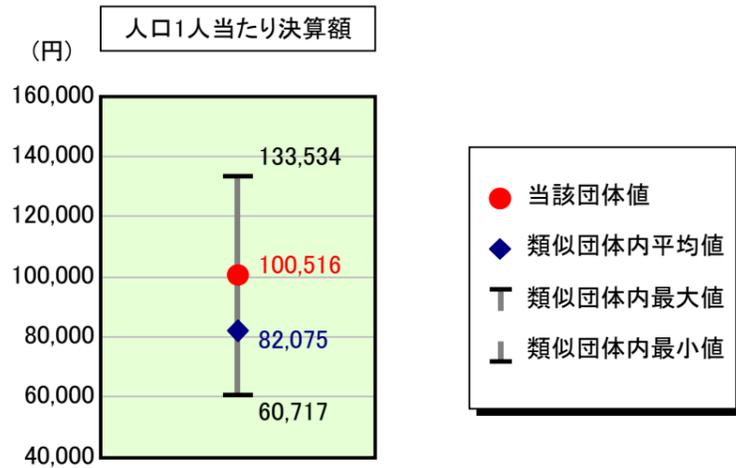
【普通建設事業費】
補助事業の縮小、実施事業の精査等により類似団体を下回る結果となっている。財政的に厳しい状況にある以上、今後も引き続き事業の縮減が必要である。

【その他】
その他に係る計上収支比率が類似団体平均を大きく上回っている要因としては、下水道事業等の繰出金に係る義務的経費の割合が増加したことが挙げられる。



歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

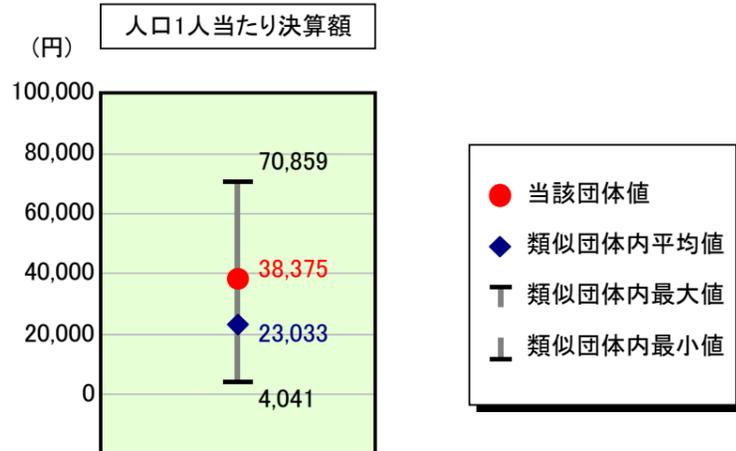
| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | 対比 (%) |
|-------------------------------|-----------------|------------|------------|--------|
| | | 当該団体 (円) | 類似団体平均 (円) | |
| 人件費 | 2,096,270 | 83,663 | 69,256 | 20.8 |
| 賃金(物件費) | 181,227 | 7,233 | 4,641 | 55.9 |
| 一部事務組合負担金(補助費等) | 343,142 | 13,695 | 9,632 | 42.2 |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等) | - | - | 695 | - |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金) | - | - | - | - |
| 公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金) | 66,846 | 2,668 | 2,849 | ▲ 6.4 |
| 事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費) | 35,375 | 1,412 | 1,316 | 7.3 |
| ▲退職金 | ▲ 204,328 | ▲ 8,155 | ▲ 6,313 | 29.2 |
| 合計 | 2,518,532 | 100,516 | 82,075 | 22.5 |

参考

| | 当該団体 | 類似団体平均 | 対比(差引) |
|-------------------|-------|--------|--------|
| 人口1,000人当たり職員数(人) | 10.86 | 8.20 | 2.66 |
| ラスパイレス指数 | 93.5 | 93.8 | ▲ 0.3 |

ラスパイレス指数及び職員数に係る項目については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである(以降の項目について同じ。)。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目を「-」としている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

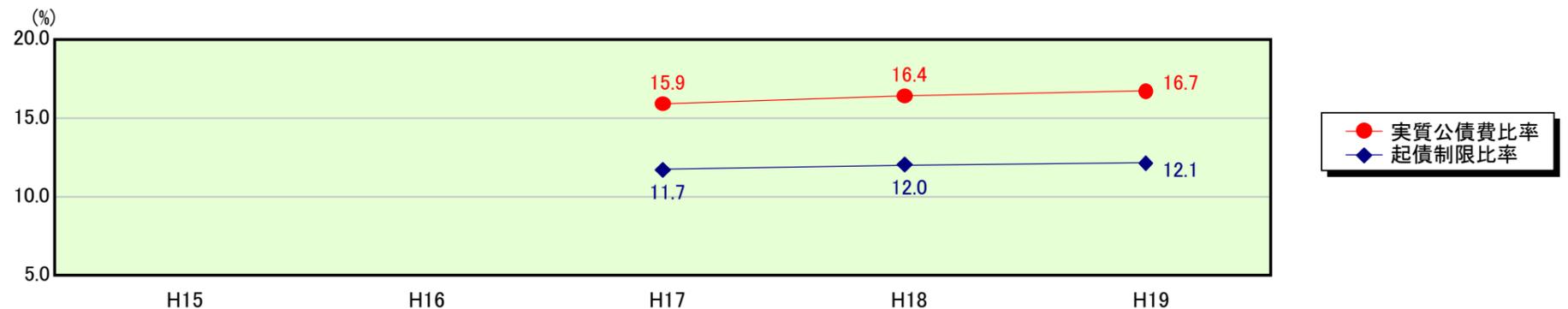


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | 対比 (%) |
|---|-----------------|------------|------------|---------|
| | | 当該団体 (円) | 類似団体平均 (円) | |
| 公債費充当一般財源等額 (繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。) | 1,582,047 | 63,140 | 32,478 | 94.4 |
| 満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)等 | - | - | - | - |
| 公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金 | 570,998 | 22,789 | 12,803 | 78.0 |
| 一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額 | 23,533 | 939 | 4,387 | ▲ 78.6 |
| 債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額 | 1,785 | 71 | 1,648 | ▲ 95.7 |
| 一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く) | 637 | 25 | 2 | 1,150.0 |
| ▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額 | ▲ 1,217,467 | ▲ 48,590 | ▲ 28,286 | 71.8 |
| 合計 | 961,533 | 38,375 | 23,033 | 66.6 |

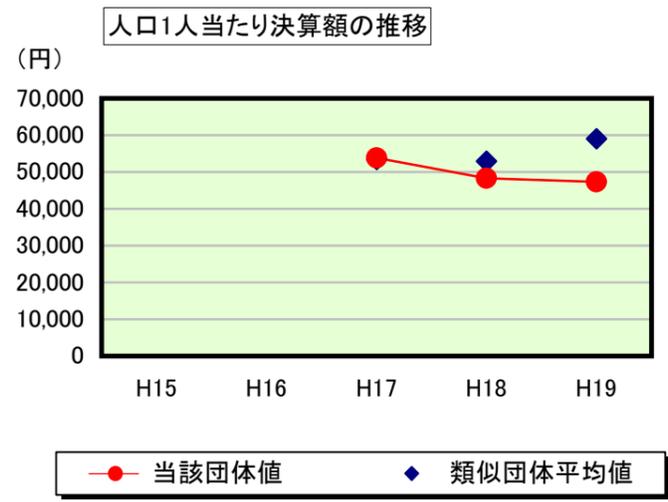
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、「-」としている(以降の項目について同じ。)

※参考 実質公債費比率及び起債制限比率の推移



歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

普通建設事業費の分析



普通建設事業費

| | 当該団体決算額 (千円) | 人口1人当たり決算額 | | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|-----------|------------|---------|
| | | 当該団体(円) | 増減率(%) (A) | 類似団体平均(円) | 増減率(%) (B) | (A)-(B) |
| H15 | - | - | - | - | - | - |
| うち単独分 | - | - | - | - | - | - |
| H16 | - | - | - | - | - | - |
| うち単独分 | - | - | - | - | - | - |
| H17 | 1,377,001 | 53,825 | - | 53,398 | - | - |
| うち単独分 | 1,188,289 | 46,448 | - | 34,793 | - | - |
| H18 | 1,226,318 | 48,320 | ▲ 10.2 | 52,962 | ▲ 0.8 | ▲ 9.4 |
| うち単独分 | 925,031 | 36,449 | ▲ 21.5 | 35,565 | 2.2 | ▲ 23.7 |
| H19 | 1,185,708 | 47,322 | ▲ 2.1 | 59,010 | 11.4 | ▲ 13.5 |
| うち単独分 | 806,397 | 32,184 | ▲ 11.7 | 37,144 | 4.4 | ▲ 16.1 |
| 過去5年間平均 | 1,263,009 | 49,822 | ▲ 6.2 | 55,123 | 5.3 | ▲ 11.5 |
| うち単独分 | 973,239 | 38,360 | ▲ 16.6 | 35,834 | 3.3 | ▲ 19.9 |